

私立大学研究ブランディング事業

2020年度の進捗状況

学校法人番号	261013	学校法人名	学校法人 立命館		
大学名	立命館アジア太平洋大学				
事業名	インクルーシブ・リーダーシップの研究・育成・実践拠点としてのグローバルブランド確立				
申請タイプ	タイプB	支援期間	3年	収容定員	5710人
参画組織	国際経営学部、経営管理研究科、教育開発・学修支援センター、立命館アジア太平洋研究センター、国際協力・研究部				
事業概要	<p>多様化する価値観から生ずる様々な現代社会の解決に資する「インクルーシブ・リーダーシップ」について、世界的にも希少なAPUのダイバーシティ環境を活かした研究・育成・実践を行い、理論化・体系化する。そこで得られた知見を広く社会と共有しつつ、APU2030ビジョン「APUで学んだ人が世界を変える」の具体化を通じてより豊かな社会作りにも貢献することで、「グローバル化した現代社会の課題を解決する大学」というブランドを構築する。</p>				
①事業目的	<p>インクルーシブ・リーダーとは 世界ではグローバル化が進み、年齢、人種、性別、国籍による考え方の違いはもちろんのこと、LGBTや障がい者なども含めて価値観が多様化しており、その価値観の違いが紛争や貧困問題、格差の拡大といった様々な現代社会の課題と結びついている。「インクルーシブ・リーダー」とは、多様な価値観を多様な個性・能力・資質ととらえ、コミュニティーの一員として受け入れて、その多様性を組織の力に変換することができる人材である。</p> <p>本事業が目指すところ インクルーシブ・リーダーシップに関するセンターを設立し、実践研究・教授法研究・理論研究を行い、さらにそれらを実践的に応用し、インクルーシブ・リーダーの育成を行う。その過程と成果を再び研究にフィードバックしつつ、国内外の研究教育機関、企業と情報を共有し、豊かで活力ある社会を日本をはじめ世界の各地で実現することに貢献する。 また、世界的に見ても米国コーネル大学がInclusive Excellence Academyを設立し実践を行っているなどの事例があるが、研究は進んでいないことがRandel(サンディエゴ州立大、2018年)などによって指摘されている。よって、APUがインクルーシブ・リーダーシップの研究・育成・実践を統合した拠点となれば、国際的にも非常に希少な存在となり、大学のブランディングが構築される。</p>				
②2020年度の実施目標及び実施計画	<p>インクルーシブ・リーダーシップに関する書籍群やガイドブックを作成し、学生への指導補助や高校生へのAPUキャンペーンとして使用する。更に、インクルーシブ・リーダーシップを促進する起業家育成のためのプログラムを学生に提示する。中間報告会を開催し、インクルーシブ・リーダー研究および実践を行う著名人による基調講演を行うことで、学内外の特に若年層対象の活動を通して研究を深め、実践する大学のブランドを構築する。</p> <p>【ブランディング戦略】 ・AACSBやQS-MAPLE、QS-APPLE総会に参加しプレゼンテーションを行い、海外ブランディング戦略を進める ・国内外のビジネスケースコンペティションに参加・開催し、海外ブランディング戦略を進める ・新規のブランディングキャンペーンであるAPU(Aspire, Participate, Unleash) キャンペーンを行う ・オープンキャンパス等で高校生等に新規のAPUキャンペーンを伝える ・APUにおけるインクルーシブ・リーダーシップに関する活動や影響力をまとめたInclusive Leadership Annual Report を発行に向けて作成。 ・インクルーシブ・リーダーシップを促進するソーシャル・イノベーションやベンチャー企業のようなプロジェクト及びスタート・アップ企業のための養成プログラムを開発</p> <p>【研究活動】 ①理論研究 ・アジア太平洋カンファレンス(APカンファレンス)において、インクルーシブ・リーダーシップに関するセッションを設ける ・インクルーシブ・リーダーシップに関する書籍群を出版する ②実務研究 ・企業の役員、プロフェッショナル、本学の卒業生を対象とした、インクルーシブ・リーダーシップの知識と実践方法を教え、発展させるためのInclusive-MBAコースを設置する ③教授法研究 ・国内外のビジネスケースコンペティションに参加・開催し、学生のインクルーシブ・リーダーとしての能力を発揮する機会を設け成長を促す ・Inclusive Week を設定し、インクルーシブ・リーダーシップに関する催しを開催することで、在学生及び来校者向けにインクルーシブ・リーダーシップの理解を促す ・指導の補助となるインクルーシブ・リーダーシップ・ガイドブックを執筆する ・ビジネススクールの国際オナーズ組織であるベータ・ガンマ・シグマのグローバル・リーダーシップ・サミットへの参加</p>				

<p>③2020年度の事業成果</p>	<p>コロナウイルスの影響で計画通りに進めることが難しい取り組みもあったがその状況を逆に活かし、オンラインでの発展的な取り組みが実施できた。主な取り組みは以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ・リーダーシップをはかる尺度の開発に向け、ダイバーシティおよびインクルージョン環境に関するアンケート調査を実施、開発を進めた。 ・2022年度までに書籍出版することを目指し、原稿を執筆した(校正後、出版社へ提出)。 ・インクルーシブ・リーダーシップを促進する起業家育成プログラムの一環として、国内外の企業の役職者や研究者によるセミナーを複数回実施。 ・事業の中間報告会をアジア太平洋カンファレンス内で開催。(【研究活動】①理論研究を参照) ・セミナー等の開催や、学生イベントへの支援、学内のインクルーシブ・リーダーシップ環境の現状把握・啓蒙を目的としたアンケート等も実施し、幅広く大学のブランディングに取り組んだ。 ・イベント参加者数は延べ約2,000人を数え、国内外の多くの人に本学および本学の研究・取り組みを周知することが出来た。 ・大学の評価においては、イギリスのグローバル高等教育評価機関であるQuacquarelli Symonds (QS)が実施するQS Stars Rating Systemの総合評価において4つ星を獲得し、「インクルーシブネス」をはじめとする4分野の評価で特に優れているとして5つ星を獲得した。そのほか、英国の高等教育専門誌『タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(Times Higher Education, THE)』が発表した「世界大学ランキング日本版2021」においては対象278校のうち、APUは4年連続西日本私立大学で1位、全国私大で5位となる等、海外から高い評価を得ることが出来た。ブランディング戦略、研究活動ごとの事業成果詳細は以下の通り。 <p>【ブランディング戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議や総会の開催中止等の変更を受け、オンラインカンファレンスでの発表機会を多く持つことに変更し、海外ブランディング戦略を進めた。(参加者数:約40名) ・オープンキャンパスの中止を受け、代わりに高校生向けのオンラインセミナー等で発表・講演を行った。(高校生の参加者数:約60名) ・本学の取り組みや影響力をまとめたInclusive Leadership Annual Reportを発行した。 ・インクルーシブ・リーダーシップを促進・養成するプログラムに代わり、企業の役職者や研究者によるセミナーを複数回実施し、学生の理解促進を図った。(学生の参加者数:約500名) ・学内のインクルーシブ・リーダーシップを推進する気風の醸成・強化のため、本学学生・教職員を対象としたイベントを複数実施した。(参加者数:約400名) ・本学の研究や取り組みの認知度を高めるためのイベントを複数開催した。(イベント数:20超(共催・後援含む)、参加者数:約600名) ・ホームページやソーシャルメディアを活用した国内外への発信も積極的に行った。ソーシャルメディアでのリーチ数は約46,000、Youtubeの公開動画は計7,300回視聴があった。 <p>【研究活動】</p> <p>2020年度は全体で15件の研究プロジェクトを実施した。</p> <p>①理論研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア太平洋カンファレンスにおいて特別セッションを開催。海外の研究者を講師として招聘し国内外の研究機関から多くの参加者を得た。(参加機関数:8、参加人数:約110名) ・インクルーシブ・リーダーシップの研究者による非公開の研究会を実施した。(参加機関数:3、参加人数:約10名) <p>②実務研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Inclusive-MBAコースの設置に代わり、企業の役職者、プロフェッショナルを対象にインクルーシブ・リーダーシップの知識や実践方法を発表した(セミナー数:2、参加者数:約180名)。 <p>③教授法研究</p> <p>以下のような取り組みを行い、そこで得た知見を教授法研究に活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Inclusion weekを設定し、インクルーシブ・リーダーシップの啓蒙・学生の力量形成に繋がる企画を学生が主体となり実施した。実施にあたってアドバイザーとして本学教員が参加した。(week期間中に開催したイベント数:7、参加者数:約110名、SNSでのリーチ数:約4,800) ・教授法に特化した研究助成を学内公募し研究を推進した。(採択プロジェクト数:4件、プロジェクトに参画する研究者数:25人) ・教授法研究を深めるため、インクルーシブ・ティーチングを推進する専門の講義アシスタントに配置、学生アンケートやアシスタントからの意見をもとにガイドブックを作成し、2021年度以降活用できるよう教員へ周知予定(アンケート回答数:約240件、アシスタントを配置した講義数:14) <p>(参考)2018年度の進捗状況:https://www.apu.ac.jp/cil/plan/2018/ 2019年度の進捗状況:https://www.apu.ac.jp/cil/plan/2019/</p>
<p>④2020年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <p>学内の自己点検評価委員会において、本事業は期待以上に成果を上げられたという評価であった。また本学では立命館学園の監事監査が別途あり、定期的に大学運営の監査を受けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>国内外の外部委員による「APU Governing Advisory Board・大学評価委員会」(GAB)による評価を受けることとしているが、コロナウイルスの影響で延期となり、年度中の開催ができなかった。</p>
<p>⑤2020年度の補助金の使用状況</p>	<p>事業計画に基づく配分で資金管理を行っている。区分と主な用途は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブランディング戦略での補助金使用状況:3,265千円 2. 研究活動での補助金使用状況:4,909千円 3. ほかに事業運営費(教職員人件費含む)